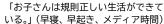
研究課題	ソサイエティ5. 0社会に積極的に参画できるデジタル市民の育成	
副題	〜知識の習得と積極的な利活用で育成するデジタルシチズンシップ〜	
キーワード	デジタルシチズンシップ デジタルアイデンティティ	
学校/団体 名	公立静岡市立南藁科小学校	
所在地	〒421-1223 静岡県静岡市葵区吉津 400	
ホームページ	https://minamiwara-e.shizuoka.ednet.jp	

1. 研究の背景

近年、社会のデジタル化は急速に進み、インターネットは日常生活に欠かせないものとなった。子ども達を取り巻く環境も変化し、GIGA スクール構想に基づく1人1台端末の配布により、学習環境は格段に進歩し、時間や空間の効率化が図られ学習効果も上がってきた。しかし、インターネットが子供達の日常となればなるほど、子供達はデジタル世界の様々な危機にさらされる。また、子供達の人間関係も、デジタルの世界に24時間にわたって広がり、SNSに関するトラブルも増加してきている。こうした心配に加え、ゲーム依存や視力の低下など、ゲームやテレビも含めたメデイアとの付き合い方に関する保健面での保護者の悩みは尽きないというのが現状である(円グラフ「令和3年度学校評価保護者アンケート」より)。

こうした社会的な背景から、「子ども達とインターネットは切り離せないもの」という大前提にたち、禁止や制約で安心安全な活用を指導する「情報モラル教育」から、デジタルの良さに着目し、より良い利活用について自ら考え、積極的なデジタル社会への参画を目指す「デジタルシチズンシップ教育」への転換が求められている。これからの社会に生きる子ども達は、デジタル世界での知識や振る舞いを身につけ、自分で考え、正しく判断していかなければならない。デジタル社会で、適切に行動できる自立した個人を育成していくことが喫緊の課題となっている。

R3学校評価保護者アンケート





2. 研究の目的

本校は、令和3年度より、これまでの「ノーメディアデー」を「メディアについて考える日」と改め、月1回メディアの自己管理や生活習慣について考える取組をしてきた。その成果と課題を踏まえ、端末の家庭への持ち帰りに際して、家庭との連携を強化し、内容をメディアのより良い利活用に広げ、子ども達のデジタル社会での自立意識を高めていく必要があると考えた。学校の「共に学ぶ場」というメリットを生かした効果的なデジタルシチズンシップの育成にはどんな方法があるか、学校外でも 24 時間にわたって広がるデジタル社会で子供たちが自律した個として適切に判断し行動できるようにするにはどんな力をつけるべきか、学校におけるデジタルシチズンシップ教育のあり方を考えるため、この研究に取り組んだ。

3. 研究の経過

小学校で、全ての子供達に基本的なデジタル知識とスキルを学ぶ場を設定すると同時に、友だちとトライ&エラーしながらデジタル世界で実践する場を設定すれば、子ども達のデジタル アイデンティティを磨き、効果的にデジタルシチズンシップを育成できると考えた。

そこで、以下のような経緯で研究を進めた。

- 1) 基本的なデジタル知識とスキルの学習、デジタルアイデンティティの育成
 - ・月1日の「メディアについて考える日」 全校で、身近なトピックを取り上げたミニ講座でデジタル知識を学ぶ。その後対話を することにより、デジタル社会での行動に対して考えを持つ。
 - ・デジタルドリル教材の活用 高学年はデジタルドリル教材を利用して8つのデジタルスキルについて学ぶ。
 - ・道徳の時間の活用 道徳の時間にデジタル社会での行動についてテーマを決めて対話し、一人一人がデジ タル社会での行動に対して意識を高める。
- 2) デジタルアイデンティティを磨き行動様式を身に付ける実践的な活動
 - ・子どもの手による学校HPへの記事の掲載 友だちと内容を検討しながら、学校HPに自分たちの児童会活動や授業での学びを発信する。何を、何のために、どのように情報公開するのかを考えて話し合い、判断する手順を学ぶ。
- 3) 保健教育の側面から家庭との連携
 - ・「メディアについて考える日」「生活リズム見直し週間」 デジタル社会での健康について知識を持ち、自律した生活ができるよう、家庭と連携 しながら健康教育を進める。

4. 代表的な実践

- 1) 基本的なデジタル知識とスキルを学び、デジタルアイデンティティを育成する
 - ① 「メディアについて考える日」の取組

月に一回「メディアについて考える日」を設定し、 朝学習の時間を使ってデジタル知識について学ぶミニ 講座を実施した。前期は養護教諭、後期は情報担当が 主となり、気になるトピックを取り上げ Google Meet で動画やスライドを各教室に提示し全校で取り組んだ。 その時学んだ知識を確かなものにするよう、低学年は 学級で、高学年は縦割りグループで話し合う場を設け、 友達と意見交換をすることで自分の考えを持ったり、 意識を高めたりするようにした。

「メディアについて考える日」ミニ講座年間計画

日付	内容		
4/15	私のメディアバランスを見つけよう (健康にメディアを使う)		
5/16	ちょっとひとやすみ (気持ちの切り替え)		
6/15	生活リズムを見直そう		
7/13	オンラインの安全 (デジタルの危険性)		
9/16	ことばの力 (デジタル世界での表現)		
10/17	自分でめあてを決めて取り組もう(中学校区共通)		
11/16	インターネットの便利さとは		
1/16	インターネットの罠(個人情報の扱い)		
2/15	フェイクニュースって何? (正しい情報を得るには)		

6月は、生活リズム見直し週間でもあったため、自分が立てたメディア時間の目標が、実現可能な目標となっているか、メディアバランスを考えて立てられているかについて考えた。Jamboardのワークシートにその目標にした理由や生活リズムの帯グラフを書き込み、異学年の縦割り班でワークシートを見合って意見交換した。

2月は、「フェイクニュース」をテーマに考えを深めた。 クイズやビデオを使ってフェイクニュースについて知り、 様々なニュースをどのように受け止めたらよいか考えた。 情報の発信元を確かめる、情報を見比べる、疑ってみるな ど、デジタル社会で情報を受け取るときの心構えを学び、 その後友達と意見交換して「正しい情報を得ること」につ いて理解を深めた。また、意見交換の記録は全校が目にす る場所に掲示し、意識の継続を図った。

メディアについて考える日は、感想や今後のめあてをワークシート に記入し、家庭に持ち帰って保護者からもコメントをもらうようにし た。家庭での話題にしたり、家族と一緒にめあて取り組んだりするこ とで、より確かな実践ができた。

② デジタルドリル教材の活用

サイバーフェリックス社のデジタルインテリジェンス (DQ) を育成するデジタル教材「DQ World」を 5,6年生で活用した。デジタルインテリジェンス (DQ) とは、デジタルライフに不可欠な社会的、感情的、認知的能力を体系化したものであり、「DQ World」は、デジタル時代の課題や要求に対処するために、自分の感情や行動を調整するために必要な知識、スキル、能力など8つのデジタルシチズンシップの育成を目指している。



「メディアについて考える日」の掲示物





「DQ World」に取り組む様子



デジタル社会の課題は多岐にわたり、その分野の知見がまだ十分でない教員が多く、研修が追いついていない。そのため、指導内容や方法について、教員自身が子どもと一緒に学びながら学習を進めた。本教材は、ゲームを通して、バーチャル世界を体験しながらデジタル世界での知識や価値観を学ぶことができる教材であり、子ども達が意欲的に学習を進めることができた。

③ 道徳の授業の活用

デジタルドリル教材は、ゲームを取り入れた自立学習型の教材である。基本的には各自で学習を進めるため、それだけではなかなか理解が深まらない。そのため、道徳の授業を活用し、 一つのテーマを友達と話し合う中で、自分なりの考えをはっきりさせ、価値観を確立できるよ うにした。

し合うという活動を行った。

【6年生道徳「デジタルリーダーになろう」】※サイバーフェリックス社「DQ World」活用 6年生では、ネットいじめやスクリーンタイムについて、あらかじめデジタルドリルで個々 に学習を進め、共通の知識を持った上で、道徳の時間に学級で話 6年生の道徳の様子

授業では、動画を視聴した後に自分の普段の生活やメディアとの使い方を振り返り、これからどのように情報機器や SNS と付き合っていけばよいのか考え、友達と意見交流をした。自分の課題も明らかになり、デジタルリーダーとして適切な利活用をしていこうとする意識の高まりが見られた。



スクリーンタイムについては、保護者との連携を図りたいと考え、参観会で授業を公開し、 家庭でも話題にしてもらった。

【2年生道徳「気持ちに気づく」】※Google「Be Internet Awesome」活用

リアルの世界での「気持ちを表す言葉」を確認し、ワークシートに描かれている人物の様子から、 気持ちを想像し、その理由を話し 合った。友達の意見も参考にしな がら、普段の生活の中でも相手の





2年生の道徳の様子

気持ちを想像できるヒントがたくさんあることを学んだ。

その後、ネット上のゲームで困っている人、悲しんでいる人を見分け、適切に行動する練習を行った。リアルでもネット上でも、相手が出しているヒントから相手の気持ちを想像し、共感しようとする態度を養うことができた。

2) 実践的な活動でデジタルアイデンティティを磨き行動様式を身に付ける

① 学校HPに児童会活動を掲載する

児童会の子どもたちが児童会活動の様子を記事にし、学校HPで発信している。掲載する文を考えたり、写真を選んだりする時に、教員がチェックをする前に、子ども達同士で吟味、検討する活動を取り入れた。ネット上の情報は、世界中の人が受け取る可能性があることを確認し、掲載する文や写真の情報公開に問題はないか、学校外の人が読んでもわかりやすい文になっているかな



児童会話し合いの様子

どを話し合い、自分達の考えで修正をした。デジタルシチズンシップ教育で学んだことを生か しながら検討し、記事を作成することができた。

② 学習で製作した動画を発信する

6年生は、総合的な学習で作成した地域の良さをまとめた動画について、HP に掲載するか

どうかを検討した。賛成意見や反対意見が出る中で、HP に掲載する場合に必要な条件について話し合った。正しい情報となっているか、映り込んだ映像に個人情報はないか、広報を目的とするなら場所が特定できる情報も必要ではないか、発信する情報に責任を持つためにもある程度の個人情報は入れるべきではないか、許可を取る必要があるのは誰かなど、かなり深い話し合いに繋がった。個人情報の扱いも、情報公開の目的や公開の程度により様々であることを学ぶことができた。

修学旅行の報告会を縦割りグループごとに行った時も、下級生に見せる写真にとても気を遣っていた。知らない人が映り込んでいる写真をどうしても使用したい時は、顔をぼかすことで個人が特定できないようにして発表していた。こんな場面でもデジタル知識が生きていること、個人情報の扱いに対して意識が高まっていることがわかった。

3) 保健教育の側面からの家庭との連携

ICTの活用が進み、家庭への端末持ち帰りが始まると、「使用時間」に対する保護者の不安がより高まるだろうと予測された。本校では、もともと視力低下と生活リズムの乱れ(就寝時間が遅い)に関する課題があった。そのため、ICTを教育活動に取り入れていくこと、「メディアについて考える日」を通じて、家庭と連携して健康教育を進めたいことなどを「学校だより」や「保健だより」を通じて広報した。

また、月1回の「メディアについて考える日」や年2回の「生活リズム見直し週間」では、各自がメディアとのつきあい方や生

活リズムについてめあてを持ち、週末に実践して保護者と一緒に振り返りを記入するというワークシートを使用した。メディアの使用時間に着目するだけでなく、睡眠や外遊びなど、生活そのものを見直せるようにし、健康への意識を高めた。家庭と連携することで、より確かな実践となり、その後の家庭での実践継続にも繋がった。





「メディアについて考える日」に保護者と一緒に取り組む『チャレンジシート』



生活リズムについて広報する『保健だより』

5. 研究の成果

子ども達が、インターネットに関する知識を身につけ、デジタル世界での個人情報の扱いや 正しい情報の受け取り等に関して格段に意識が高まった。特に高学年では、一人前の大人のよ うな言動も見られ、何も考えずにインターネットを使用するのではなく、デジタル世界での振 る舞いについて考えを持ち行動するという頼もしさも感じる。

今年度の実践や成果を元に、デジタルシチズンシップ教育カリキュラムも作成することができた。やってみて初めてわかることも多く、実施時間や教科とのカリキュラムマネジメントも考えることができた。

また、昨年度から、AIドリルを導入したり、欠席児童のオンライン授業に対応したりするなど、先進的にICTの活用を進めてきた。それに合わせ、「デジタルシチズンシップ教育」の考え方を示し、保護者や職員が心配する「ネットトラブル」や「視力低下」に先手を打ったため、ICTの活用にブレーキをかけるような意見を聞くことがなく、大変良かったと考える。

6. 今後の課題・展望

今後はこの指導計画を実践しより良いものにしていく必要がある。また、教材についても、「SNSしずおか」「Google Be Internet Awesome」等いくつかあるので、吟味し、より適切なものを選択していきたい。この分野は喫緊の課題であるにも関わらず、教育課程の中にはっきり位置づけられておらず、実践が遅れている。教員研修も追いついていないというのも大きな課題である。本校の実践を

R5年度 南藁科小学校デジタルシチズンシップ教育カリキュラム (一部抜粋)

分類	概学年□ 1・2年生 SNS/一ト①	中学年□ 3-4年生 SNS/ト②	集学年□ 5·6年生 SNS/-ト3
1.機能社会の後項	的東や決まりごとを守る メ参	相手への影響を考えて行動する メボ	他人や社会への影響を考えて行動する メ8
	SNSノート P5~P7 年運機「みんながつかうばしょだから」	SNS/	SNS/ P7-P10 Google P15-P20
	人の作ったものを大切にする心を持つ メ⑤	自分の性報や他人の情報を大切にする メ⑤	情報にも、自他の権利があることを知り、尊重
	SNS/ート P12 2年連携「角がついたかいじゅう」	SNS/	SNSJート P7~P10 ネット社会の歩き方 M.14、16、18 6年道橋「焦に入らなかった写真」 6年間番「調べた情報の用い方」
2.安全への知恵	大人と一緒に使い、危険には近づかない メル	推験に出会ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する メ参	予測される危険の内容がわかり、避ける メ8
	SNS/	SNS/ PI3~PI4 Google P37, P43	SNS/-+ PI5 Google P39, P43
	不適切な情報に出会わない環境で利用する メ①	不適切な情報に出会ったときは、大人に意見を求め、適切 に対応する メウ	不適切な情報であるものを領職し、対応でき
	SNS/-+ PI6~PI9 Google PI23	Google P123	Google P123,126
	知らない人に連絡先を教えない メ①	個人の情報は、他人にもらさない メ①	自他の個人情報を第三者にもらさない メ①
	SNS/ P13 Google P43 P79	SNS/	SNS/-+ PI3 Google PI5, P43
	決められた利用の時間や約束を守る メ③⑤	健康のために利用時間を決め、守る メ3個	健康を寄するような行動を食制する メ③⑥
	SNS/ P8	SNSノート P9ーP10 3年道機「やめられない」 3年保練「1日の生活のしかた」	SNS/ート PII~PI2 6年道機「なれなかったリレー選手」
		機能には終ったものがあることに気づく メツ	情報の正確さを判断する方法を知る メ密
		SNS/	SNS/-+ PI3~PI4 Google PA9, PS5

市内に発信し、静岡市全体のデジタルシチズンシップ教育を前進させたい。

7. おわりに

この研究は初めて学ぶ分野であるため、教員の負担が大きいと思われた。しかし、始めから 完璧を目指すのではなく、「まずやってみる」「子どもと共に試行錯誤する」という姿勢を持て ば、少しずつでも前進することがわかった。教育が大きく変わる今、管理職は先を見通し、職員が新たなことにチャレンジできる環境づくりを進めることが大切である。また、デジタルシチズンシップ教育は、子どもを信頼し自律を促す教育であり、これからの学校づくりの理念に マッチしていると考える。

8. 参考文献

- ・デジタル・シティズンシップ 坂本淳・芳賀高洋・豊福晋平・今度珠美・林一真/大月書店
- ・一人1台のルール〜自由に情報端末を使えるようになるために〜 為田 裕行/さくら社
- ・道徳教育 2022 年 1 月号~GIGA スクール時代の情報モラル教育~ /明治図書